

第55回体育大会

Cooperation is one heart ~心を一つに協力して~

10月22日(金)に第55回体育大会を開催いたしました。感染拡大防止の観点から、3年生保護者のみの観覧とさせていただきます。朝、一時的に雨が降りましたが、乾いていた運動場がいい具合に湿り、良いコンディションになりました。風が吹くとやや寒さを感じる時はありましたが、時折晴れ間が出る空の下で体育大会を挙行了しました。

野田心春生徒会長が閉会式のあいさつの中で率直に心から述べたことば「(今日の体育大会は)一言で言うと、**“めっちゃ、よかった”**です」に象徴されるように、学級・ブロック・全体が一つになって競技し、生徒会体育大会スローガン『Cooperation is one heart ~心を一つに協力して~』が達成できた笑顔であふれる体育大会となりました。ここで、体育大会で見られたいくつかのすてきな場面を紹介します。



- 選手宣誓は、すばらしい一言でした。赤ブロック長(佐伯司さん)と青ブロック長(城下龍生さん)がぴったりと息を合わせ、高らかに宣誓しました。そして、旗手を務めた赤副ブロック長(松延俐乃さん)と青副ブロック長(矢賀部すみれさん)の凛とした姿もすてきでした。

数日前に宣誓の練習の様子を見ていましたが、その時とは比べ物にならないほど、上達していました。その姿から、この数日間にこの4名はもちろんのこと、なかまたちとともに練習し創り上げてきたことは容易に想像できました。その様子を想像すると、さらにうれしくなりました。



- 今回の体育大会は、学年ごとの競技(綱引き・学年競遊・学級リレー)が多く、例えば1年生が競技している時は、2年生は入場門に整列をして待機していて、生徒席には3年生だけとなります。この場合、生徒席からは3年生だけが応援することになります。青ブロックも赤ブロックも、どの学年でも一生懸命に応援しているのが、本部席まで伝わってきました。頼りとしている3年生がいないと応援の勢いが若干落ちることが多いのですが、2年生だけでも、1年生だけでも、各学年のブロックリーダーが生徒席からの応援をリードして、しっかり応援していました。その姿に頼もしさを感じるとともに、1・2年生に3年生の頑張りが伝わっていると実感しました。
- 生徒席からの応援だけでなく、競技者どうしでの応援も印象的でした。3学年競遊は長縄8の字連続跳びでした。学級ごとに競技をしたのですが、競技をしていない学級が対戦相手である学級が競技をしている間、ずっと拍手を送り続け、応援していました。ややもすると、対戦相手のミスを喜ぶようなことがあるのですが、そのような姿はなく、見ている観客の気持ちが温くなる光景でした。
- 学級リレーは、どの学年も白熱したものとなりました。学級によっては、テイクオーバーゾーン(バトンをわたす場所)をうまく使うなど、作戦を立てて臨んでいました。本番、競技に真剣にとりくみ夢中となっていたため、テイクオーバーゾーンを越えてバトンパスをしてしまうチームがどの学年でもありました。ルール上これは違反となりましたが、それぐらい熱くなって、一人一人が全力で走り、バトンをつないで、ゴールをめざしていました。その一生懸命な姿こそが輝いていて、周囲に感動を与えていました。



メジャーリーガーの大谷翔平選手は、父の教えでもある3つのことを大事にしているそうです。それは、【一生懸命に声を出す・一生懸命にキャッチボールをする・一生懸命に走る】です。誰にでもできるようなことを一生懸命に取り組むことが、自分を成長させ、夢を実現させる。今回の体育大会で西中生が見せてくれた一生懸命さと重なります。今後、この一生懸命を日々の授業や生活につないでくれることを期待しています。最後になりましたが、ご多用の中に、多数ご観覧いただき、ありがとうございました。

(文責 木村彰男)

~ 自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること ~